

越中八尾おわら歌碑 《いにしへの文化人との交流》

曳山展示館前（6/26）



一本刀土俵入（作者：長谷川伸）の碑

場所：曳山展示館前

一本刀土俵入（いっぽんがたなどひょういり）は長谷川伸（はせがわしん）の作品の中で最も多く上演されている戯曲。主人公の駒形茂兵衛（こまがたもへえ）とお鳶（つた）による股旅物。特に、お鳶の故郷は越中八尾であり、劇中で小原節を口ずさむ場面がある。
長谷川伸（本名：伸二郎）は明治十七年神奈川県横浜市の木請負業の家に生まれる。小説家・劇作家であり、股旅物というジャンルを開発した。おわら節を愛し、八尾町を訪れており、お鳶のその後を「作者である私だけの勝手な空想」として七七七五の唄に残している。

お鳶あみ笠 背に投げかけて

越中八尾の 風の盆。

（石碑内容より抜粋）

唄の町だよ

八尾の町は

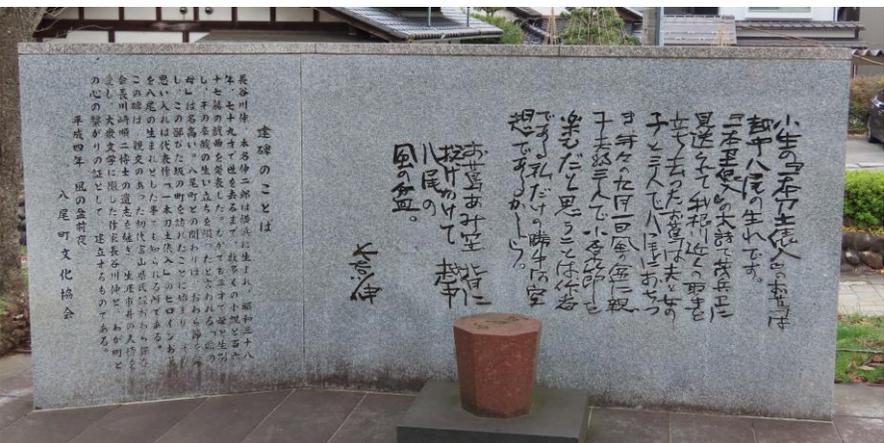
唄で糸とる

オワラ 桑も摘む

中山 輝

中山 輝（なかやまてる）
詩人・民謡作詞家。

明治三十八年、富山県中新川郡立山町の家に生まれる。北陸タイムズ、富山日報を経て北日本新聞代表取締役を務めた。日本海詩人連盟の機関紙「日本海詩人」や「民謡詩人」の創刊に携わるほか、富山県内の校歌の作詞も行っている。



▲一本刀土俵入の碑

※人物の説明は主にウイキペディアより抜粋



一本刀土俵入の碑



越中八尾郵便局前

曳山展示館前



越中八尾では江戸時代から続く八尾八幡社の春季祭礼「曳山祭」がある。
 業平(在原業平)は上新町、小町(小野小町)は東町の御神体で、その他に西町、今町、諏訪町、下新町が各々の曳山と御神体を持つ。これらの曳山は、鏡町の獅子が露払いした後に巡行する。
 曳山を歌詞にした唄は次のものもある。
 あがれ提灯曳山じょうげの坂を
 上りや八尾のオワラ夜が明ける

祭り曳山
 業平小町
 城ヶ山では
 オワラ花ざかり
 小杉放庵